

平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査
第 1 回地域検討会（三重県） 議事概要

日時；平成 19 年 9 月 1 日(土) 10：10～12：10

場所；鳥羽磯部漁業協同組合 桃取町支所

議事

開会（10：10）

- 1．環境省挨拶
- 2．資料確認
- 3．検討員の紹介〔資料 1〕
- 4．座長選任
- 5．議事

平成 19 年度調査の全体計画に関する説明〔資料 2〕

概況調査計画に関する説明〔資料 3〕

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画に関する説明〔資料 4〕

その他の調査計画に関する説明〔資料 5〕

- 6．その他連絡事項

閉会（12:10）

配布資料

資料 1 平成 19 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（三重県）検討員名簿

資料 2 平成 19 年度調査の全体計画（案）

資料 3 概況調査計画（案）

資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画（案）

資料 5 その他の調査計画（案）

参考資料 1 対策の方向性（目標設定）の検討

参考資料 2 クリーンアップ調査 共通調査作業手順書

出席者

検討員（五十音順、敬称略）	
石原 義剛	海の博物館 館長
片山 まちみ（欠席）	桃取婦人会 会長
木下 憲一	鳥羽市企画財政課 課長
斎藤 秀継	鳥羽磯部漁業協同組合 桃取町支所 理事
高屋 充子	きれいな伊勢志摩づくり連絡会議 会長
高山 進	三重大学大学院生物資源学研究所資源循環学専攻 教授
竹内 清	鳥羽市環境課 課長
寺澤 一郎（欠席）	三重県環境森林部 水質改善室 室長
（代理:渡辺 将隆）	三重県環境森林部 水質改善室 生活排水対策特命監
橋本 計幸	鳥羽磯部漁業協同組合 和具浦支所 理事
服部 千佳志	国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所 企画調整課 課長
浜口 正文	桃取町内会 会長
水谷 直樹	国土交通省 中部地方整備局 三重河川国道事務所 副所長
山下 善継	鳥羽磯部漁業協同組合 答志支所 理事
山本 実	鳥羽市農水商工観光課 課長
オブザーバー（五十音順、所属機関名）	
岡 芳正	三重県環境森林部水質改善室 主幹
小浦 嘉門	鳥羽磯部漁業協同組合桃取町支所
小松 正尚	海上保安庁第四管区海上保安部 鳥羽海上保安部 警備救難課 課長
清水 敏也	鳥羽市企画財政課 課長補佐
下村 卓	国土交通省中部地方整備局三重河川国道事務所 河川管理課長
田中 則行	三重県農水商工部 水産基盤室 技師
中島 浩	海上保安庁第四管区海上保安部 鳥羽海上保安部 警備救難課 専門官
中村 孝	鳥羽市環境課 資源リサイクル係長
西村 俊彦	三重県政策部 地域づくり支援室 主査
深田 透	三重県環境森林部 森林保全室 室長
藤原 幹木根	三重県農水商工部 農業基盤室 主査
三浦 春弥	鳥羽磯部漁業協同組合桃取町支所
水野 博	三重県伊勢農林水産商工環境事務所 環境課 課長
宮崎 恵一	三重県環境森林部 環境森林総務室 主査
山川 豊	三重県政策部地方分権・広域連携室 副室長
和田 一人	三重県環境森林部 ごみゼロ推進室 副室長
環境省	
前田 大輔	地球環境局 環境保全対策課
石橋 和隆	地球環境局 環境保全対策課 環境専門員
下川 元三	中部地方環境事務所 志摩自然保護官事務所 自然保護官
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)	
宇野 正義	名古屋事業所
鈴木 善弘	地球環境ユニット
山田 忠男	名古屋事業所
井川 周三	地球環境ユニット
常谷 典久	HSE コンサルティングユニット

議題1 平成19年度調査の全体計画について(資料-2)

質問・コメント等はなし。

議題2 概況調査計画について(資料-3)

- 1) 三重県としては、今回の調査がモデル地区として答志島を対象としているが、海ゴミの問題は伊勢湾全体の問題であると捉えている。調査にはできる限り協力させていただく。海岸線を対象に実施された清掃活動等の情報収集に可能な限り協力する。
- 2) 航空機の調査では、ゴミが大量に出た時に撮影することが最も効率の良い調査であるとする。
- 3) 調査計画の中で、「漁業資源」という言葉の記載がないが、もう少し漁業資源にも目を向けた調査の実施を検討いただきたい。

議題3 クリーンアップ及びフォローアップ調査計画について(資料-4)

- 1) (きれいな伊勢志摩づくり連絡会議としては、) 労力の提供をする立場として、人員の確保に時間を要するのなるべく早く調査日程を決めていただきたい。また、安全の確保と有意義な場所での調査実施をお願いしたい。
- 2) 漂着ゴミ分類リストに、カキの養殖の際に使用する1センチぐらいの丸いプラスチック製のゴミを追加していただきたい。広島では既に再利用されているものである。
- 3) 調査には、きれいな伊勢志摩づくりのメンバーを基本として来てもらう。人員の足りない場合は、メンバー以外で鳥羽市に在住している方に参加いただくことを考えているが了解いただきたい。
- 4) 共通調査については、他地点でも実施する内容であると理解しているが、調査範囲としている奈佐の浜が300mぐらいのものであり、対象調査範囲として島全体を考慮する方が良いと思われる。
- 5) 今年度の調査範囲はご提示した範囲で行うが、今年度得られた結果を検討し来年度の調査に反映できるかどうか検討する。

議題4 その他の調査計画に関する説明(資料-5)

- 1) 経路も問題だが、量の問題があると思う。今回の調査では、海岸に漂着するゴミを対象としているが、ゴミの総量についても把握する事を検討いただきたい。長良川河口堰で回収されるゴミは、全量が回収されているわけではないと聞いている。
- 2) セントレアができる以前と以後では、神島に漂着するゴミの量が違っている。今回の調査では、海流の流れに加えて風の向きも大きな意味を持っていると思われるので、このあたりも検討いただきたい。
- 3) の漂流経路の調査を実施し、検討する予定。

議題5 全体を通じての質疑応答

答志島での調査実施にかかわる経緯と三重県の本調査に対する考え

- 1) 本調査は、流木の問題がこれまでにあった答志島を対象として、県から環境省に対して、何とか選定いただけないかといろいろと話をし、選定いただいた経緯がある。
- 2) 三重県としては、本調査が発生源を探る単なる犯人探しではなく、海ゴミ問題そのものが伊勢湾流域全体の問題であると認識している。このような認識を三重県だけではなく、愛知県、岐阜県も共有いただき伊勢湾流域で何らかの対策をとれるようにしていきたい。現状では具体的な方策がない中、このような調査が流域全体で考えることができるきっかけとなることを願う

ている。

PR 活動について

- 1) 三重県もそうだが、鳥羽市のほうでも何らかの機会をとらえては、資料提供をさせていただいている。その結果として、三重県議会や鳥羽市議会で、この調査に関する質問等が取り上げられており、一定のPR効果がある現状でもあると認識している。
- 2) 可能であれば小学校や中学校に対して、今回の調査についてPRする方法があれば良いと考えている。特にボランティアとして参加をすることではなく、このような調査を実施していることの広報について、市の方でご検討いただければありがたい。
- 3) フォローアップ調査で、「ライターが表示からこんなことがわかる。」という事を作業に来られた方々に説明し、この作業の意味をわかってもらうことは重要である。様々な工夫を凝らして、広報とか市民への呼びかけを実施いただきたい。

桃取からの意見

- 1) 桃取は毎年、大雨あるいは台風が来ると大量のゴミが漂着し、大きな悩みとなっている。地理的にも伊勢湾のゴミを受けるような位置にあることが見てわかると思う。
- 2) 調査範囲と実際にゴミが漂着する状況をみると違いがみられ、もう少し西よりに範囲をずらしていただきたいと言ったが聞き入れてもらえなかった。東寄りにはそれほどゴミは流れない。
- 3) このゴミ問題は、桃取地区だけでなく伊勢湾全体の問題として捉えてほしい。
- 4) ゴミがどこから流れてくるのか調査し、その発生源と桃取でお互いに話をしながらゴミを出さない運動を繰り広げることで、多少なりともゴミが減り、ゴミ回収にこんなに苦労しなくて済むようになると思われる。

その他

- 1) 桃取地域の方々には、長い間ゴミ問題に直面している。その地元の方々の経験をしっかりと調査の中で捉えていただきたい。
- 2) 過去には、海岸によって管轄省庁が異なっていることで、処理が遅れたこともあると聞いている。このような行政間での問題について、今回の調査で環境省が把握していくことで解決されていくのではないかと考えている。
- 3) 今回の調査の一番肝心なことは、発生源を確定することだと考えている。これまでに発生源と思われるダムに抗議したこともあるが、発生源である事を立証することができず、答志島は被害を受けるだけの状況である。これまでに、桃取に流れ着いたゴミの状況が写真で記録されている。この写真のデータを解析することも、ゴミの内容を見ていく上では重要な情報になると思われる。
- 4) この地域でも沈殿したゴミが沖合に堆積している。このゴミが台風になると舞い上がっていることも考えられる。今回の調査では、海底ゴミは瀬戸内海のみが対象であるが、漁業で生計を立てている答志島を考慮した調査内容も来年に何か加えていただきたい。
- 5) 今回のような調査を国が実施するという事は、これまでに無かったと思う。大変ありがたい話しであり、感謝しているので、是非実行性のあるものにしていただきたい。
- 6) 今回の調査は、市民に意識を持たせる意味でもチャンスであると考えているので、是非ともこのような活動を広報することを意識して実施いただきたい。
- 7) 地元で所有する過去の資料については、調査結果の充実を図って参りたいと考えているので、是非ご提供いただきたい。